

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度 第 1 回茨木市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 29 年 5 月 26 日 (金) 午前 10 時 00 分 開会・午前 11 時 30 分 閉会
開 催 場 所	茨木市役所 南館 3 階 防災会議室
会 長	小幡 範雄
出 席 者	小幡 範雄、渡辺 信久、富田 清香、堂脇 末雄、三好 信明、三上 雅弘、 田中 サオリ、福田 榮三、竹原 篤子、矢野 正 (10 人)
欠 席 者	原田 智代、川口 美加、嶋本 佳世 (3 人)
傍 聴 人	なし
事 務 局	吉田産業環境部長、神谷産業環境部次長兼資源循環課長、抱環境事業課長、 上村環境衛生センター所長、中野環境事業課主幹兼業務係長、 千品資源循環課課長代理兼計画係長、西川施設整備係長、 吉本職員、竹國職員 (9 人)
次 第	1 開会 2 産業環境部長挨拶 3 出席者の報告 (会議の成立) について 4 議題 案件 1 本市のごみ排出量・資源物量の推移について 5 議題 案件 2 本市のごみ減量施策について 6 議題 案件 3 廃棄物処理施設の整備に係る基本方針について 7 その他 8 閉会
配 布 資 料	案件 1 本市のごみ排出量・資源物量の推移について 案件 2 本市のごみ減量施策について 案件 3 廃棄物処理施設の整備に係る基本方針について 資料 1 平成28年度一般廃棄物処理実施計画 資料 2 平成29年度一般廃棄物処理実施計画 資料 3 廃棄物処理施設の現況 資料 4 廃棄物処理施設の整備に係る大日程 資料 5 廃棄物処理施設の整備に関する年表 資料 6 ごみ処理施設のライフサイクルコスト推計 資料 7 茨木市環境衛生センター 排ガス測定結果

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会
	2 産業環境部長挨拶
	3 委員・市職員紹介
事 務 局	これからの議事は、会長に議長を務めていただく。
	4 出席者の報告（会議の成立）について
議 長	平成 29 年度第 1 回茨木市廃棄物減量等審議会を開催する。 まず、出席状況について、事務局より報告をお願いします。
事 務 局	審議会委員の出席状況は、総数 13 名のうち、出席 10 名、欠席 2 名という状況である。 嶋本委員は、少し遅れて出席するとのこと。
議 長	ただ今事務局から報告があったが、過半数の委員が出席しているので、規則により会議は成立している。 この審議会は、公開ということになっている。傍聴者がいれば入室を許可する。
事 務 局	傍聴者はいない。
議 長	傍聴者がいないので、議事に沿って進めていく。
	4 議題 案件 1 本市のごみ排出量・資源物量の推移について
議 長	案件 1 は「本市のごみ排出量・資源物量の推移について」である。資料に沿って事務局から説明をお願いしたい。
事 務 局	【 案件 1 「本市のごみ排出量・資源物量の推移について」の資料説明 】
議 長	今までの実績報告であるが、意見があれば何う。
A 委 員	7 ページの「資源物回収量の推移」について、例年、前年度を下回って予算を設

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	定しているのはなぜか。資源物回収量が増えると、増加した分予算が増えるため、予算は前年度を上回って設定すべきではないか。
事 務 局	7ページの表は資源物回収量の実績値を示している。目標値としては、前年度を上回るように設定している。
A 委 員	7ページの表の数値は予算であると理解していた。実績値であれば、納得できる。
事 務 局	表のとおり、実績値は下がっている状況であり、集団回収量を上げようと、今年度は報奨金支給額の変更や支給要件の緩和を行った。
B 委 員	資源物回収量について、店舗回収などの民間で回収したものが茨木市外に出てしまえば、茨木市の資源物回収量には入らないのではないか。
事 務 局	ご指摘のように、民間での回収分は反映されていない。この表では、市の直接収集と集団回収量が反映されている。民間の回収量が反映できればよいが、把握が難しい。
B 委 員	店舗回収などの民間の回収量が反映されていないのであれば、市の資源物回収量の減少は当然だろう。
C 委 員	4ページにある「最終処分量」について、他市からの不燃ごみを受け入れているとあるが、何をどこからどれだけ受け入れているのか。また、これを受け入れなかった場合は目標を達成していたのか。
事 務 局	他市からの搬入の内訳だが、摂津市からの不燃ごみを受け入れている。全体量に占める摂津市からの受け入れ量から考えると、受け入れなかった場合でも最終処分量に影響はなかったと思われる。
C 委 員	6ページで説明されている展開検査について、事務局は事業系ごみ量の減量化に相当の影響があると考えているのか。
事 務 局	展開検査の効果ということだが、事業系ごみ量の内訳を分析すると、本市の事業系ごみの大半を占める大阪府の市場と食品流通センターの減量が進んでおり、その効果とあわせて減量化が進んだと考えている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
B 委 員	展開検査をしている様子を環境衛生センターの見学者に遠くからでも見えるように検査を行ってはどうか。
事 務 局	展開検査は基本的には抜き打ち検査であり、見学者にはタイミングがあえば、検査の説明をしている。検査の最中の様子を見学者に見てもらってはなかなか難しいが、このような検査をしているという啓発はしていきたい。できる範囲で検討する。
A 委 員	先日弊社の店舗から出たごみについて、展開検査で不適切なものがあつたと連絡があり、収集運搬業者に問い合わせたが写真はないと言われた。展開検査の最中に撮っている写真を見せてもらうことはできるのか。見せてもらうことができれば、今後の改善に役立つのではないか。
事 務 局	市では、抜き打ちの調査という形で実施しているため、写真等の公開は情報公開請求をしていただかねばならない。ただ、当事者である事業者様には、指導のなかで写真を提示するということがある。排出事業者の立場で、ということであれば、環境事業課に連絡をいただければ対応させていただく。
議 長	他に何か質問はないか。なければ、案件1は終了させていただく。
	5 議題 案件2 本市のごみ減量施策について
議 長	では、案件2について、説明をお願いしたい。
事 務 局	【 案件2「本市のごみ減量施策について」の資料説明 】
議 長	ごみ減量について、順調に進んでいるようだが、何か意見あれば伺う。
D 委 員	「収集区域の見直し」とは、どのような見直しをする予定なのか。
事 務 局	家庭系ごみの収集については、市域をブロックに分けて、ブロックごとに業者委託しているが、地域の開発が進み複雑になったり、人口の偏りがあつた収集ブロックを平準化することで、業務量についても平準化することを目的として検討した。見直しにあたっては、市民の皆さまへの影響のないように、収集曜日を変更することがないよう、調整した。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
D 委 員	収集区域が変わるだけで、収集曜日は変わらないとのことだが、市民に周知はしなくてよいのか。
事 務 局	収集の時間帯が変わる可能性があるので、市民への周知啓発は必要であり、適正な時期に実施したい。
E 委 員	ダンボールコンポストとは何か。また、廃棄物減量等推進員の研修の参加者は何人か。
事 務 局	ダンボールコンポストは家庭の生ごみを堆肥化しようという取組で、電気式のものや設置型のコンポストと異なり、より手軽に作れるため、本市で広めていきたいと考えている。ダンボールに分解菌が繁殖しやすいもみ殻くん炭などの基材を入れて、水分を加える。それに生ごみを入れて混ぜる。3ヶ月間生ごみの投入を続けて、さらに3ヶ月を経て堆肥化できるものである。
事 務 局	廃棄物減量等推進員研修会については、昨年度は2回実施した。まず、11月にごみ減量等リサイクルに関する講演会を実施し、42名が参加した。翌1月に「家庭から始まるごみ減量と3R」と題した講義とグループワークによる意見交換会を実施した。意見交換会という制限もあり、参加者は24名であった。
B 委 員	ダンボールコンポストを実施したが、3日に1回生ごみを投入すると、9キロとなった。作った堆肥は植木などにやっている。皆さんが取り組みばよいと考えている。
F 委 員	環境教育の副読本だが、案件1で説明されたように平成37年度までの目標に向けたまちのすがたなどを掲載しているのか。
事 務 局	今回の副読本の改訂は、よりごみの分別を分かってもらいたいということで、フロー図を付けた。矢印に沿って進めば、ごみの分別が分かるものである。今回の副読本の改訂には10年後を見据えた内容を掲載していないが、よいご指摘をいただいたので、次回の改訂の際には、ぜひ検討させていただきたい。
B 委 員	西河原の自治会では、ごみ分別アプリとごみの分け方出し方のリーフレットを全戸に配布した。若い方はアプリ、高齢者はリーフレットを見ているようだ。おかげで、西河原ではだいぶ美化が進んできていると思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	ごみ分別アプリは、平成 28 年 1 月に配信を開始した。開始月の 1 ヶ月間でダウンロード数は約 1500 件となった。定期的に周知しており、年末や年度末にはダウンロード数が増える傾向にある。平成 28 年度は出前講座でアプリの周知チラシを配布したり、副読本にも掲載している。多くの小学生に対して、周知をしている。
議 長	他に何かあるか。なければ、案件 2 を終了する。
	6 議題 案件 3 廃棄物処理施設の整備に係る基本方針について
議 長	それでは、今日の審議事項となる「廃棄物処理施設の整備に係る方針」について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	案件 3「廃棄物処理施設の整備に係る基本方針について」の提案理由に関しては、約 10 年後に到来する廃棄物処理施設の耐用寿命期に際し、その整備方針を新規更新とするか、長寿命化とするかを現時点で定めることにより、今後の整備計画を円滑に進めようとするものである。 【 案件 3「廃棄物処理施設の整備に係る基本方針について」の資料説明 】
議 長	事務局では、環境省等の方針、費用から判断して、平成 37 年度に現在の施設を長寿命化するということである。この方針について、長寿命化か全面建替か、コスト以外でも色々なご意見があらうかと思われるので、意見を伺いたい。 資料 6 の表は少し見方が複雑ではあるが、長寿命化の累積費用が青色の線で、新規更新した場合の累積費用が緑色の線で描かれている、として見れば分かりやすいと思われる。コスト以外に安全性でお気付きのこともあらうかと思うので、ご意見があれば伺いたい。
C 委 員	今の話だと長寿命化でいくというようだが、『縮小』といった言葉が出たように聞こえた。短期はこのままの体制で行くということか。
事 務 局	基本方針の「2 基本的な事項」の 2 点目として、現行水準の 450 トンを維持していきたいと考えている。その理由は、今後いつ起こるか分からない災害への備えと、摂津市との広域処理の可能性である。特に災害廃棄物の処理については、できるだけ余裕を持った整備計画にするよう国からの方針も出されている。
C 委 員	寿命を延ばす場合でも、今年度中に国に対しての地域計画を策定する必要がある

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	のか。
事 務 局	来年度に予定している長寿命化計画の作成費用を出してもらうには、地域計画の承認をいただく必要がある。
議 長	長寿命化で進めるとすると、平成 53 年、2041 年から建替をして 387 トンの規模の施設にすることだが、これはどういうことか？減量が進む、ということだよいか。
事 務 局	その通りである。摂津市との広域処理となった場合でも、減量が進んでいるためにその処理能力で十分であると見込んでいる。
議 長	ということは、長寿命化で既存施設を延命してやる方がいい、ということか。
事 務 局	その通りである。資料 6 は広域処理の実施を前提としているが、長寿命化するパターンの方が経済的なメリットがあることが見て取れる。
議 長	他に、安全面で何かあれば伺いたい。
D 委 員	長寿命化すると現行施設がベースとなり、建替では最新の施設となる。これにより排ガスなどの公害面で違いが出てくる。建替すると、現在わずかに出ている塩化水素などの数値が下がる。また、発電効率も現在の 13%程度から最新設備の 20%や 22%に変わる。このように、建替のメリットは公害関連と発電関係でのメリットである。デメリットはライフサイクルコストであるが、推計において建設費用 270 億円としているのは 450 トンの施設か。それとも、300 トンか。
事 務 局	広域処理を前提として 450 トンである。
D 委 員	450 トンで 270 億円という額は平成 23 年頃のベースの計算だと思われるが、最近はかなり高騰しており、今計算すると更に高額になることが予測される。資料 6 の下にも「近年、工事費が高騰していることから、更新と長寿命化の累積金額とも上方に振れることが想定される」とあるが、特に金額が上がっているのは土木であり、機械はそれほどではない。掘削などの土木作業がある新規更新の場合は、工事費が相当上がると思われる。今どちらがいいのかと問われると、私としてはどちらでもいい。公害が問題になっている地域であれば建替するのが当然よいか、茨木市の施

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>設は近隣に大きな住宅街がなく、これからそうなる予定もないと思われる。ちょうど昨日に築地市場の土壌汚染が報道されていたが、どこにでもあるこういったことを日本人が問われていると言える。健康被害ということでいうと、現在の施設はばい煙がほとんど出ていない状況であり、何の問題もない。ただし、ごみに関する社会的不公平がある場合にはみんなが敏感になるので、真剣に考えるべきである。今がそういったことでさして問題ないのであれば、経費のことを考慮して長寿命化で進めればよいと思われる。ただ、長寿命化をする場合にはプラントメーカーである新日鉄住金以外の業者が実施することがないよう留意しなければならない。メーカーごとに設計方法が異なり、途中で変えてしまうと「ガス量が計算とあわない」や「バランスが悪い」といったことが生じる。ダイオキシンの対策工事をプラントメーカーとは別の業者が実施した結果、従来よりも悪化した、という事例を見たこともある。計算の間違いや設計など考え方の違いがあると思われるので、そういったことが起きないように、他社の参入に気をつけることが必要である。</p> <p>建替と長寿命化には良い点と悪い点がある。建替には発電効率と公害対策にメリットがあるが、これらについて茨木市は現在のところ特に問題がないと思われるため、長寿命化によりコストを重視するという考え方も可能である。ただ、皆がリスクをどう考えるか、という部分があるため、考えがあれば伺いたい。</p>
事 務 局	<p>指摘のあった公害に関して補足する。「2 基本的な事項」の3点目で、有害大気汚染物質対策の強化による生活環境の保全に配慮したもの、といったことを掲げている。具体的には水銀対策などを強化し、長寿命化した場合でも現在の排出量よりも少なくすることを想定している。</p>
議 長	<p>長寿命化でよりよい技術を導入し、有害廃棄物等がないように努めるとのこと。他にはどうか。</p>
A 委 員	<p>資料6に「運営費」と示されているのは保守を含めているのか。長寿命化と新規更新とで運営費はほぼ同等であるが、同じ品質であれば、全てを更新する新規更新に対して一部を改修するだけの長寿命化は安全面に疑問がある。</p>
議 長	<p>運営費が同じであれば疑問がある、とのこと。</p>
事 務 局	<p>運営費には修繕費を含めている。</p>
事 務 局	<p>通常のメンテナンスは運営費に計上している。長寿命化や新規の建設に必要な大</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	規模工事費は建設費に計上している。
議 長	とのことだが、よろしいか。
A 委 員	はい。
議 長	他に何かあるか。
D 委 員	ここに集まっている方々以外の地域住民で反対意見や他の意見を考えている方が相当数いるとすると、そういった方々がない所で審議することに問題がある。この審議会は市の全体状況をあらわした構成になっているのか。
議 長	この会のメンバー構成に問題がないか、とのこと。市民の意見を代表しているということになっているが、現在、処理場について反対といったことが大きく起こっているということはないか。
委員 (複数)	(メンバー構成に) 問題はない。(その他、頷く者も複数)
事 務 局	周囲は田畑で囲まれていることもあり、現在の処理施設に関して住民からの反対等は聞いたことがない。長寿命化と新規更新のいずれであれ、地元には事前に話をうかがい理解を求めながら進めていく。
議 長	では、この基本方針について、「原案通り長寿命化という方向で進めていく」ということで結論を出してよいか。
委員 (複数)	(承諾の意思表示)
議 長	案件3は、この方針で承認する。
委員 (複数)	(拍手があがる)
	7 その他
議 長	その他として、何かあるか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
G 委 員	今日の4時から茨木市小学校区32の連合自治会の総会がある。そこで自治会長さんに伝え、市民に通達するのがいいかと思う。
事 務 局	先ほどの審議は「廃棄物処理施設の整備に係る基本方針」の案について、審議会委員の意見を頂戴するために提案したものである。今後、頂いた意見を踏まえて、市長により決定する予定であり、まだ決定段階にはない。決定後、広報や告知を通じて速やかに市民の皆さまへお知らせしようと考えている。
G 委 員	わかりました。
議 長	その他はないか。では、マイクを事務局へお返しする。
事 務 局	本日の審議会はこれで終了とする。
	8 閉会